

簡単バックアップツール

easymiro

Client Type 1 Version 1.0

セットアップガイド

ごあいさつ

この度はeasymiroをお買い上げくださりましてありがとうございます。easymiroはWindows OS標準のファイルコピー機能をベースにした極めてシンプルなバックアップ用ファイルコピーツールです。そして、シンプルならではの軽快で安定した動作が特徴となっております。

easymiroは一般的なバックアップ専用ソフトの様に難しい設定は必要ありません。独自の形式のバックアップファイルなどは使用せず、単純なファイルコピーとLZH形式の書庫だけでバックアップ処理を行います。難しい設定は極力減らし、誰でも簡単に、そして軽快に利用できる事を目的に開発しました。

動作環境

動作可能OS	Microsoft Windows Vista Microsoft Windows 2000/XP いずれも32bit版
CPU	ご利用のOSが安定して動作できるCPUが必要です。
メモリ	ご利用のOSが安定して動作するだけのメモリ量が必要です。
必要なHDD容量	インストール時、5MB（10MB以上推奨）の容量が必要です。バックアップ先の容量はバックアップの設定により必要な容量が異なります。
VGA	256色以上 1024×768以上 を推奨。

目 次

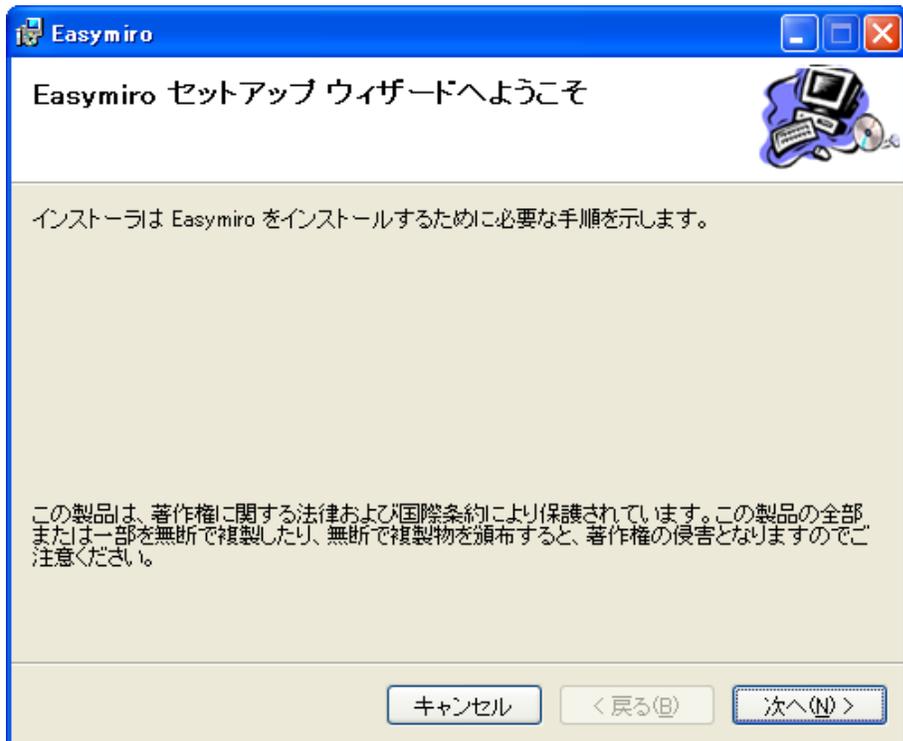
I. インストール編	4
II. 初期起動編	7
III. 利用準備編	10
IV. 実行編	15
V. まとめ	17

I. インストール編

※特別な事をする必要はありません。通常はインストーラー画面の指示に従って進めて行けば完了します。

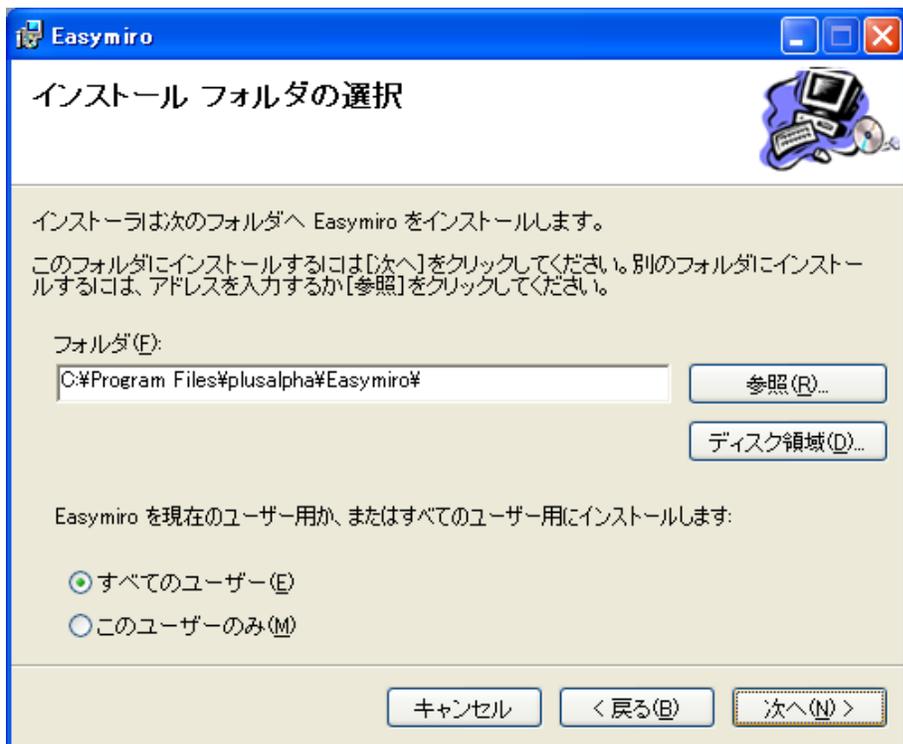
① インストーラーの起動

CD-ROMを挿入（又はダウンロードしたセットアップファイルを起動）すると自動的にセットアッププログラムが起動します。画面の指示に従って次へボタンを押下します。



② インストールフォルダの選択

画面の指示に従って次へボタンを押下します。



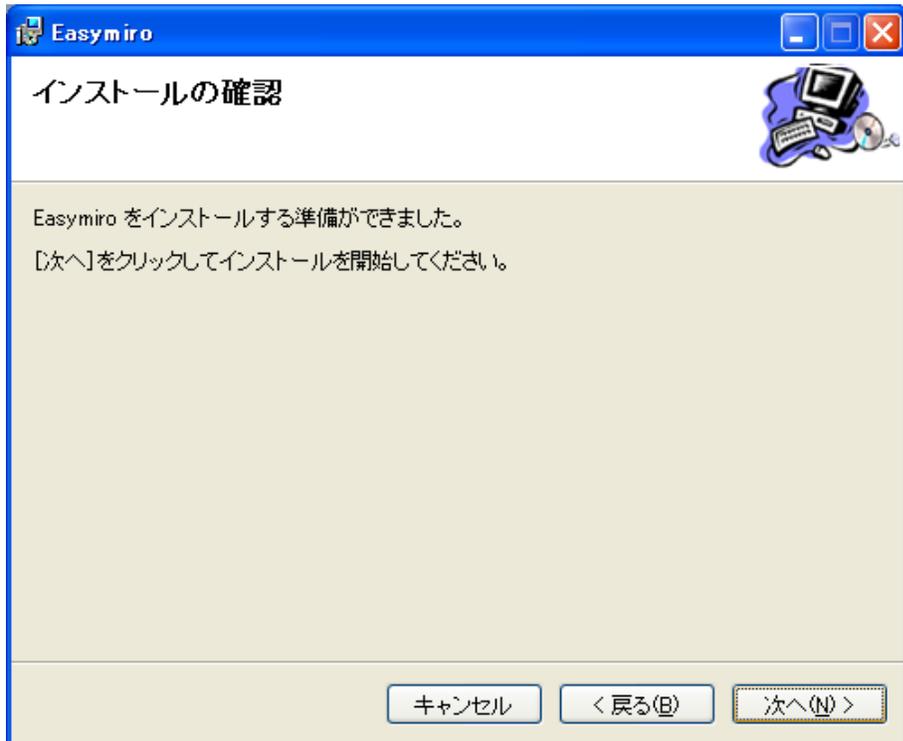
I. インストール編

※インストールはほんの数秒で終了します。

③ インストールの確認

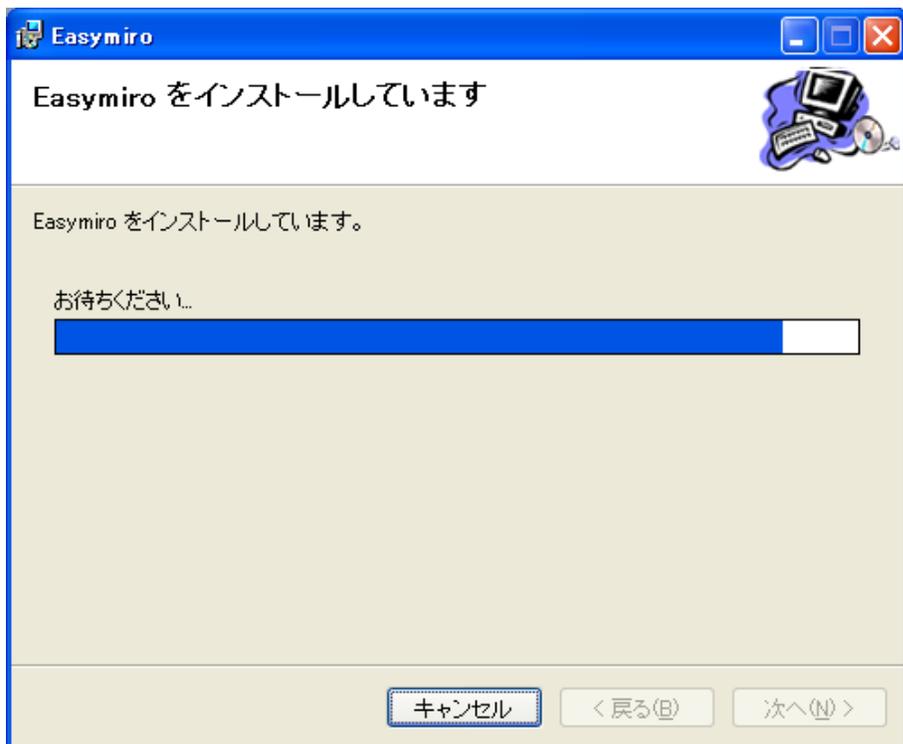
画面の指示に従って次へボタンを押下します。

Windows Vistaの場合、この後にユーザーアカウント制御画面が表示されますので「許可」を選択してください。



④ インストールしています

このままお待ちください。インストールはほんの数秒で終了します。

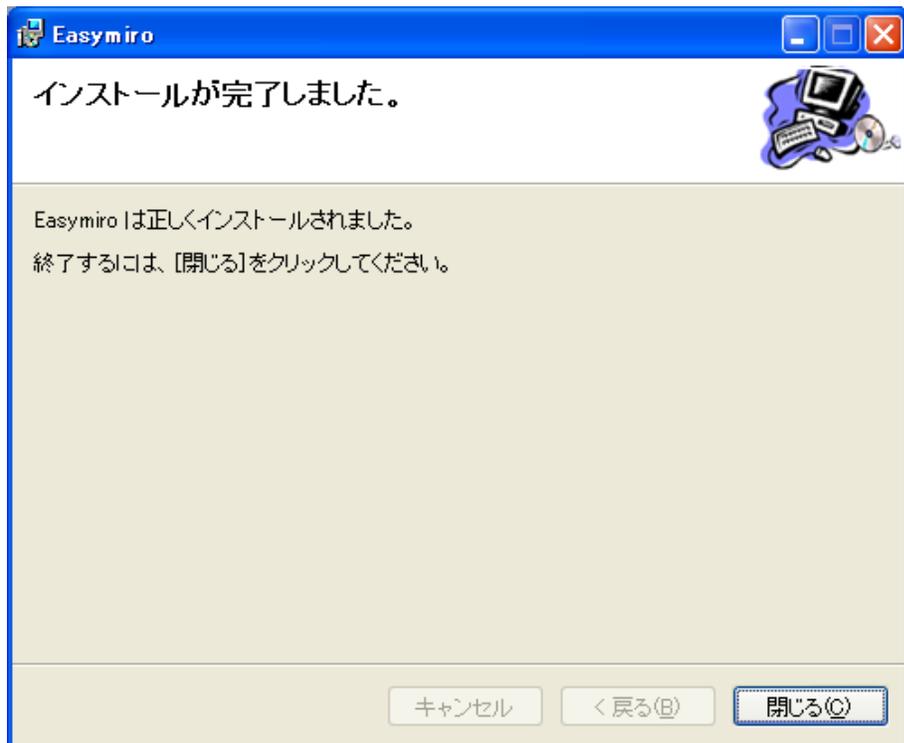


I. インストール編

※起動アイコンはデスクトップ、スタートメニュー、スタートアップに作成されます。

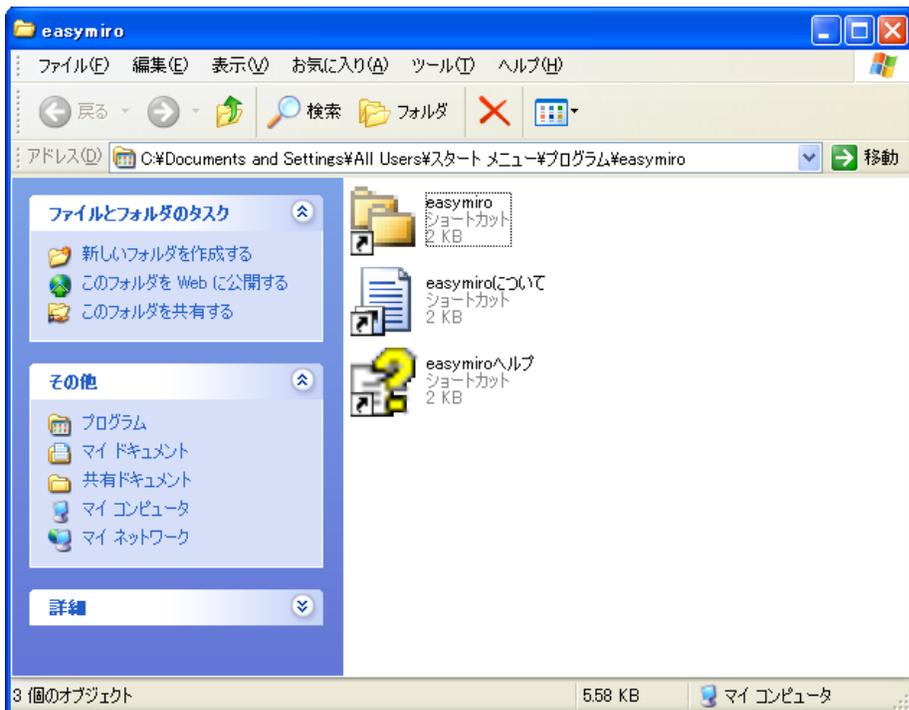
⑤ インストールの完了

インストールが完了しました。このまま画面を閉じてください。



⑥ 起動アイコン

easymiroの起動アイコンはデスクトップとスタートメニュー、スタートメニューのスタートアップに登録されています。コンピュータの再起動は必要ありません。



II. 初期起動編

※最初に製品登録を行いましょう。製品登録をしなくても使用できますが、その場合は30日間の試用版として動作し、起動毎にメッセージボックスが表示されます。

① 初回起動

インストール後に初めて起動すると、試用期間の残り日数を示すメッセージボックスが表示されます。プロダクトIDを入力せずに試用版として起動すると、起動毎にメッセージボックスが表示されます。

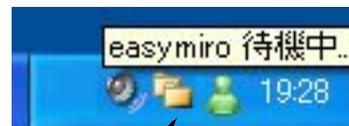
このままOKボタンを押下します。



② トレイアイコン

上記でOKボタンを押下するとそのまま何も表示されません。easymiroは起動時に自ウィンドウを最小化し、タスクバーに表示しない設定になっています。（この設定はあとから変更できます。）

タスクトレイのeasymiroアイコンをクリックするとeasymiro管理画面が表示されます。



ここをクリックします。

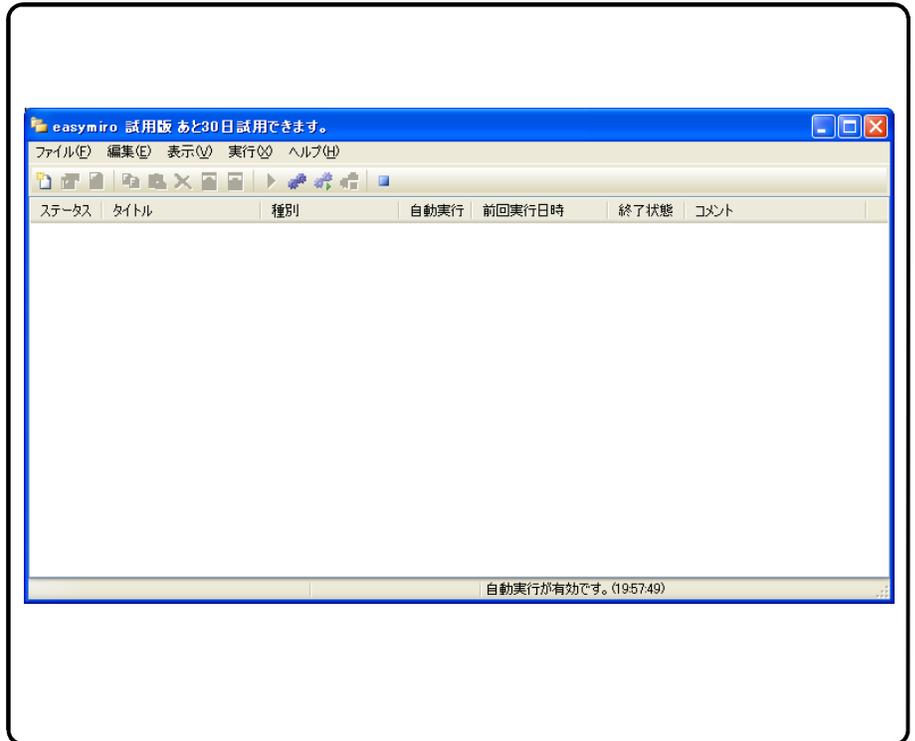
II. 初期起動編

※管理画面から製品登録を行いましょう。

③ easymiro管理画面

最初は何も登録されていないので何も表示されません。

ヘルプメニューの「製品登録(P)」を選択すると製品登録画面が表示されます。



④ 製品登録画面

プロダクトIDを入力してOKボタンを押下すると確認のメッセージボックスが表示されますので、はいボタンを押下します。

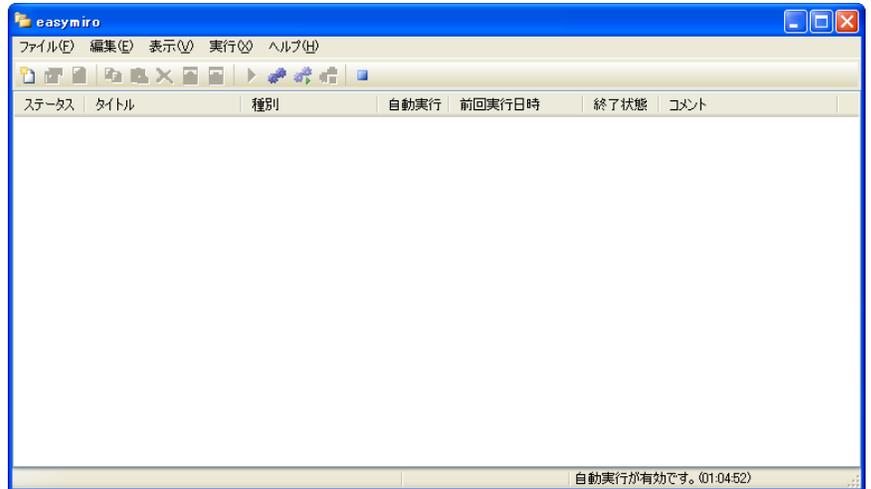


II. 初期起動編

※製品登録が完了しました。

⑤ 製品登録完了

これで製品登録が完了しました。



⑥ バージョン情報画面

バージョン情報画面で確認してみましょう。

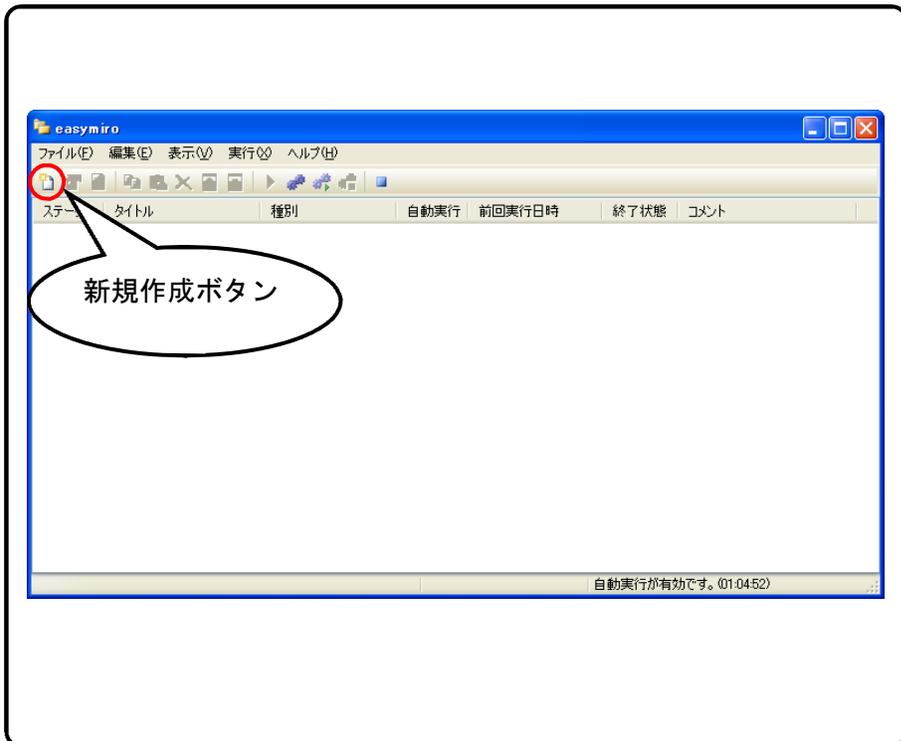


Ⅲ. 利用準備編

※それではバックアッププロパティの作成を行きましょう。

① バックアッププロパティの新規作成

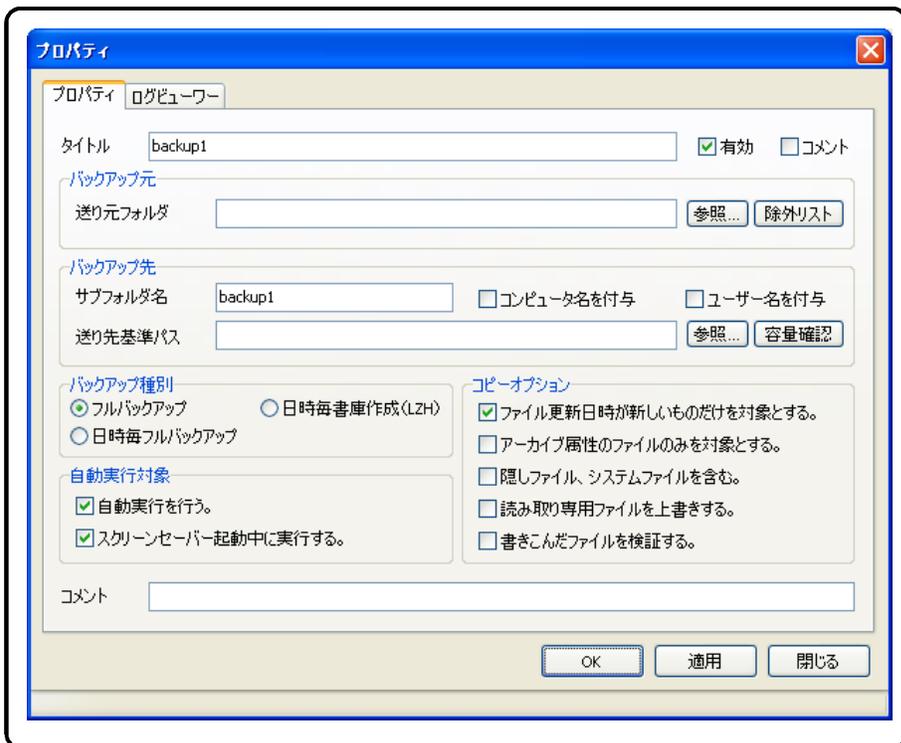
easymiroでバックアップを行う設定を行います。easymiro管理画面でファイルメニューの「新規作成(A)」を選択するか、ツールバーの新規作成ボタンを押下します。



② バックアッププロパティ画面

新しいバックアッププロパティの設定画面です。この画面でバックアップの設定を定義します。基本項目はバックアップ元とバックアップ先、バックアップ種別などです。

タイトル、サブフォルダ名はシステムが決めたデフォルト値が予め入力された状態になってます。これらの名前は適当に変更しても構いません。その他デフォルト値が設定されていますのでお好みの設定になおしてください。

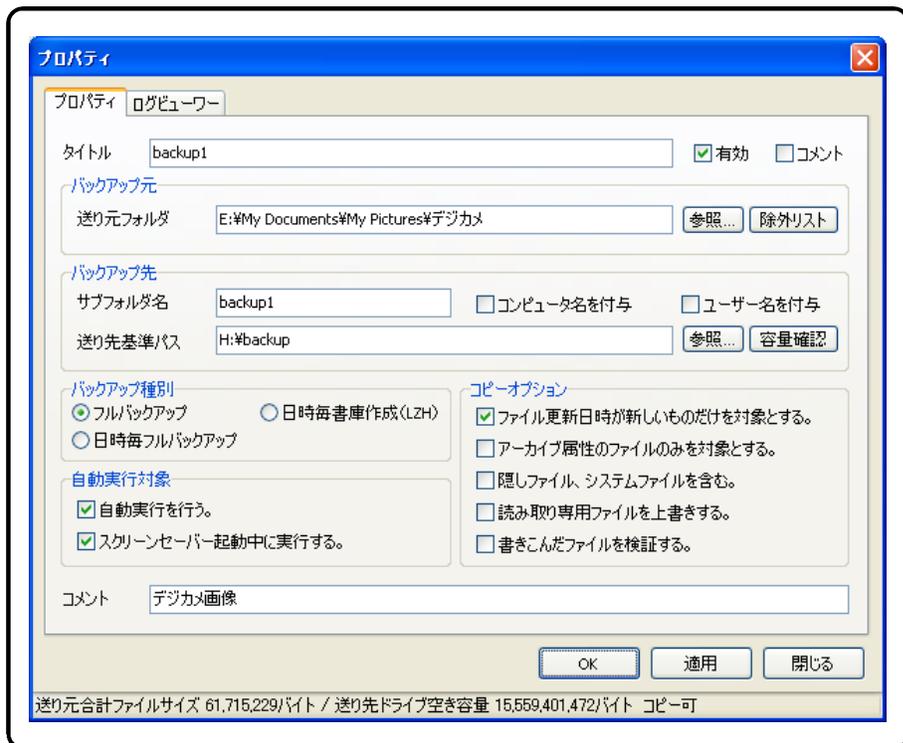


Ⅲ. 利用準備編

※基本的な設定方法です。

③ 各項目を入力

例として、「E:\My Documents\My Pictures\デジタルカメラ」というフォルダの下にあるファイルを「H:\backup」というフォルダにコピーする定義をしてみましょう。右の画面の様に入力し、OKボタンを押下します。



■ バックアップ先について

上記の定義の場合、コピー先のフォルダは「送り先基準パス」＋「サブフォルダ名」となります。コンピュータ名、ユーザー名を付与するというチェックを行った場合は以下の様になります。

【コンピュータ名を付与をチェック】

「送り先基準パス」＋「コンピュータ名」＋「サブフォルダ名」

【ユーザー名を付与をチェック】

「送り先基準パス」＋「ユーザー名」＋「サブフォルダ名」

【コンピュータ名を付与、ユーザー名を付与を両方チェック】

「送り先基準パス」＋「コンピュータ名」＋「ユーザー名」＋「サブフォルダ名」

ネットワークのコンピュータを使用する場合はネットワークドライブ名による指定はできません。UNC形式で指定します。また、ご使用中のコンピュータがネットワークコンピュータにログインされている状態でなければなりません。

■ バックアップ種別について

フルバックアップ	バックアップ元からバックアップ先へ完全コピーを行います。
日時毎フルバックアップ	バックアップ元からバックアップ先へ完全コピーを行います。実行する毎に新しく日時名でフォルダが作成され、そこにファイルをコピーします。*1
日時毎書庫作成	バックアップ元から日時毎のLZH書庫を作成し、バックアップ先へコピーします。*2 通常、書庫作成時はワークファイル作成パスが含まれるドライブの空き容量がバックアップ元ファイルサイズの合計以上必要です。

*1 基本パスの下に日時のフォルダ（YYMMDDHHMMSS形式）が作成されます。

*2 基本パスの下に日時、（YYMMDDHHMMSS形式）で構成された名前のLZH書庫が作成されます。

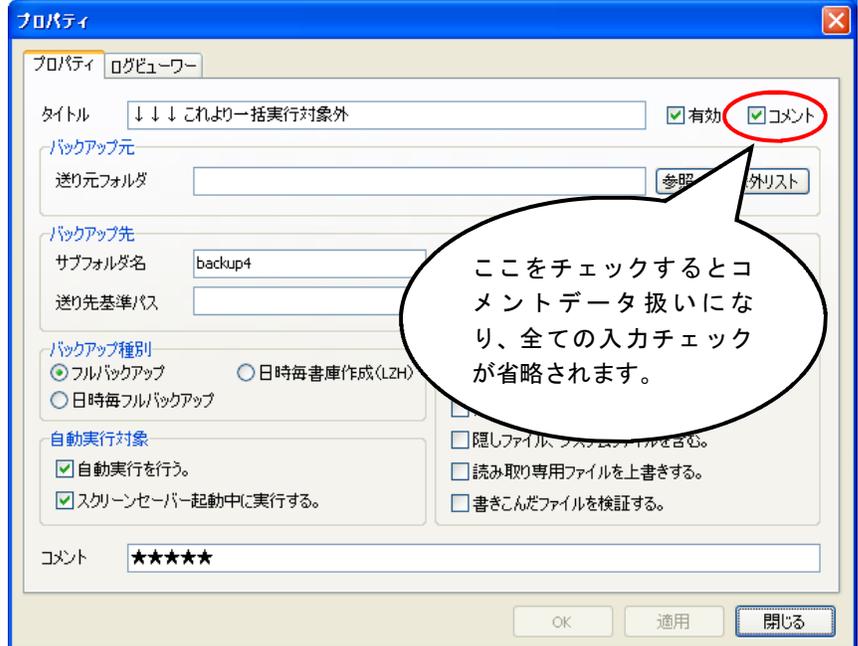
例）20080512015842.lzh

Ⅲ. 利用準備編

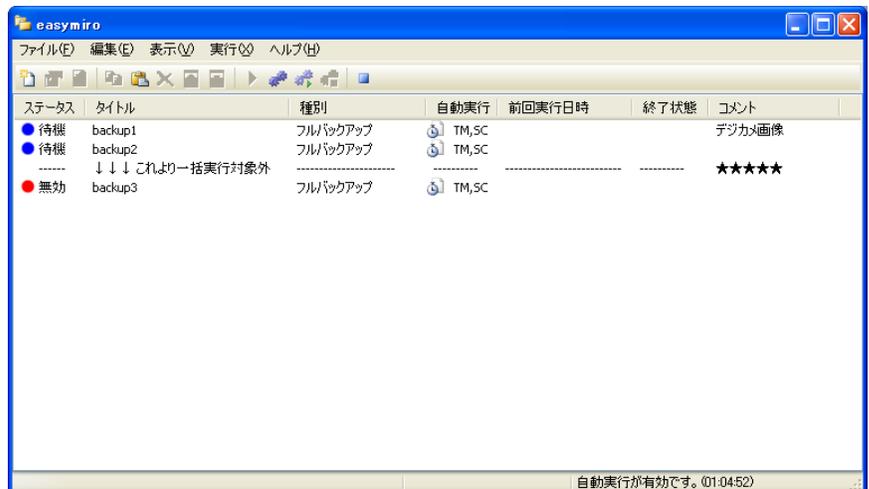
※コメント行について。

④ コメント行とは？

easymiro管理画面にたくさんのバックアッププロパティが表示される様な時にコメント行を入れておくと見易くなり便利です。



管理画面ではタイトルとコメントのみ表示され、その他の項目は「-」（ハイフン）で表示されます。



Ⅲ. 利用準備編

※バックアップ不要なフォルダや拡張子の指定。

⑤ 除外リスト

バックアップ元フォルダ下でバックアップが不要なフォルダ、ファイル、拡張子を指定しましょう。何も指定しないと全てのファイルがバックアップ対象となります。

ここに記述された名前を含むファイルがコピー対象外となります。



■除外リストについて

除外リストに記述された名前を含むファイルがコピー対象外となります。

- ファイル名 : そのままファイル名を記述します。
- フォルダ名 : ¥と¥で囲んで記述します。
- 拡張子 : 「.」から記述します。

上記の様な設定の場合、「downloaded」フォルダ、拡張子「.tmp」と「.bak」がバックアップ対象外となります。

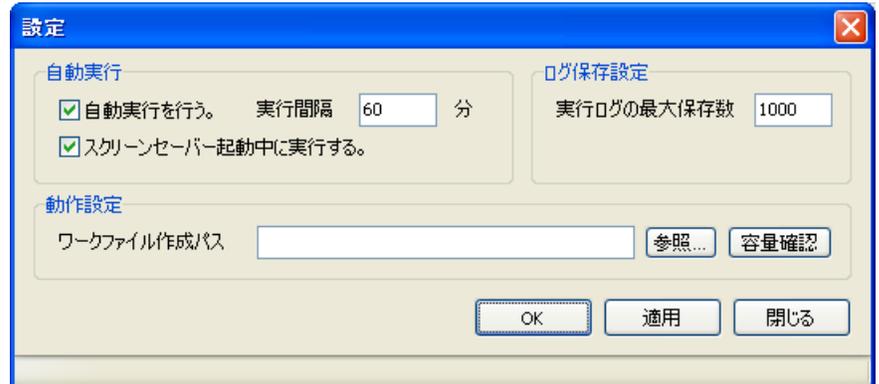
Ⅲ. 利用準備編

※自動実行設定などです。

⑥ 自動実行の設定など

自動実行やログ保存数の設定を行います。easymiro管理画面で実行メニューの「設定(E)」を選択して設定画面を表示します。このままでよければ何もせずそのまま閉じるボタンを押下してください。

インストール時は自動実行を30分間隔で行う、スクリーンセーバー起動中に実行する。実行ログ最大保存数は1000。ワークファイル作成パスは未設定（デフォルト）になっています。

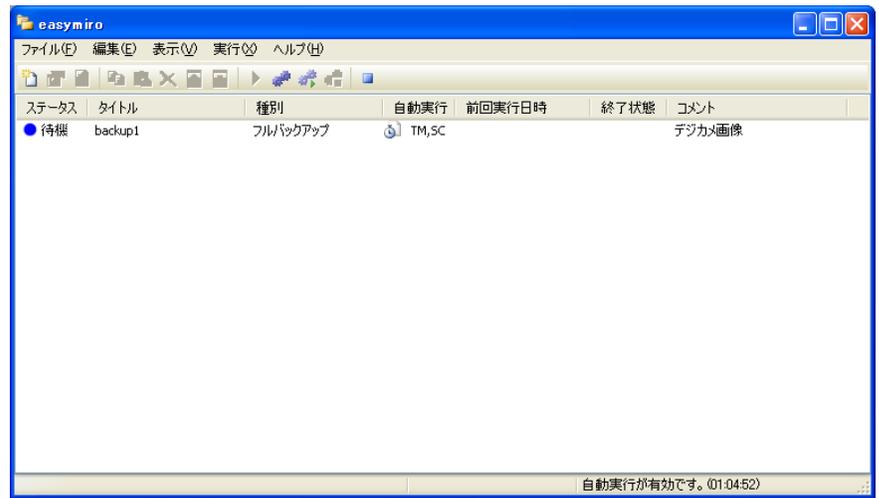


■自動実行設定について

この画面で自動実行を行う様に設定しても、個々のバックアッププロパティにて自動実行を行う設定にしていなければ自動実行は行われません。スクリーンセーバー起動中の設定も同様です。

⑦ 設定完了

これで設定が完了しました。

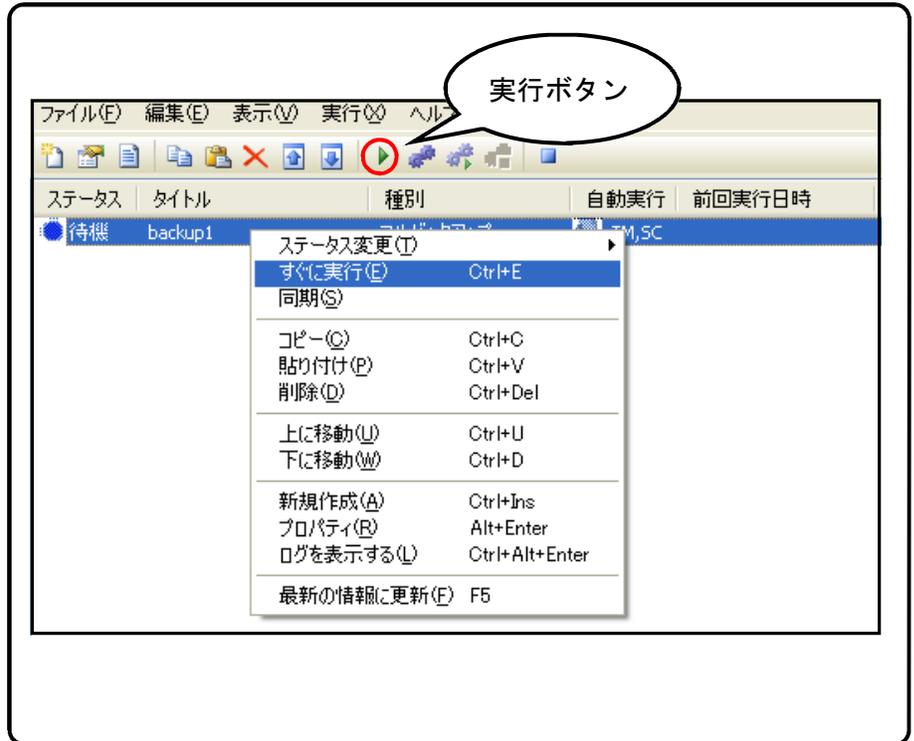


IV. 実行編

※早速使ってみよう。

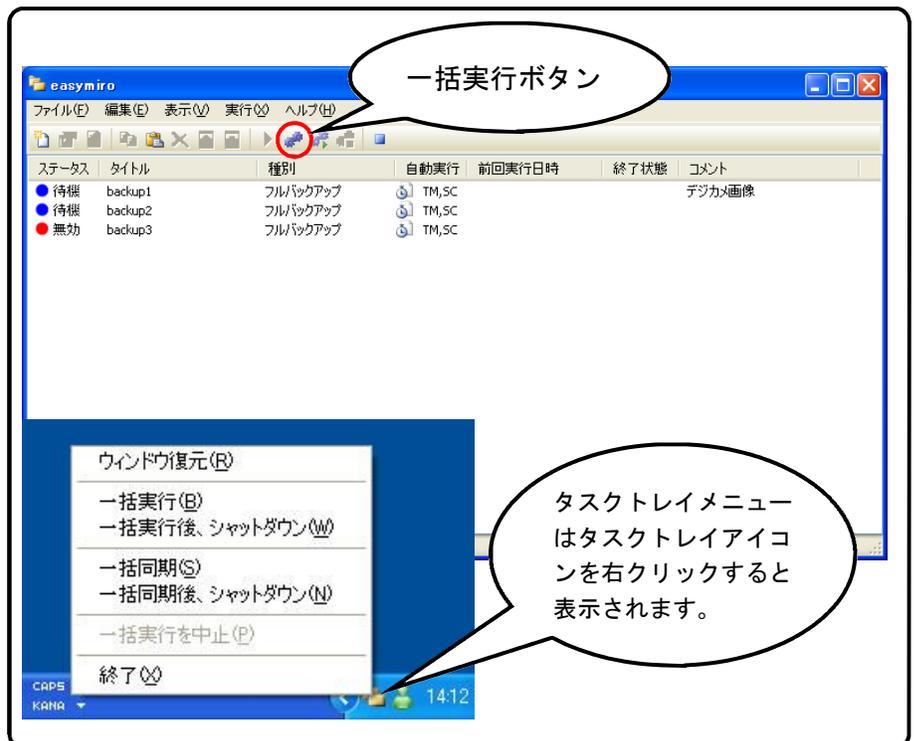
① 単独実行

単独実行を行うにはeasymiro管理画面にて、一覧に表示されているバックアッププロパティを選択し、ツールバーの実行ボタンを押下します。実行メニューや右クリックのコンテキストメニューにも同様な項目があります。



② 一括実行

複数登録してあるバックアップをリストの上から順に順次実行します。実行対象はステータスが「待機」になっているものだけです。一括実行を行うにはツールバーの一括実行ボタンを押下します。実行メニュー、及びタスクトレイメニューにも同様な項目があります。



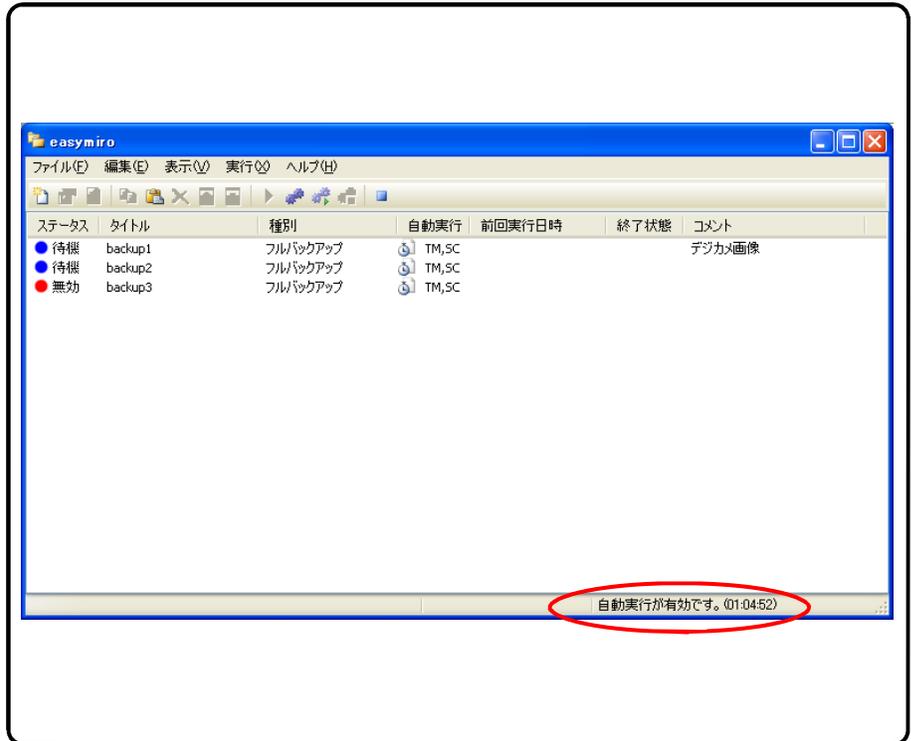
IV. 実行編

※自動実行機能を使ってみよう。

① 自動実行

自動実行は自動実行が有効になっているバックアッププロパティについて実行されます。自動実行が有効になっている場合はステータスバーに自動実行が有効な旨のメッセージが表示されます。

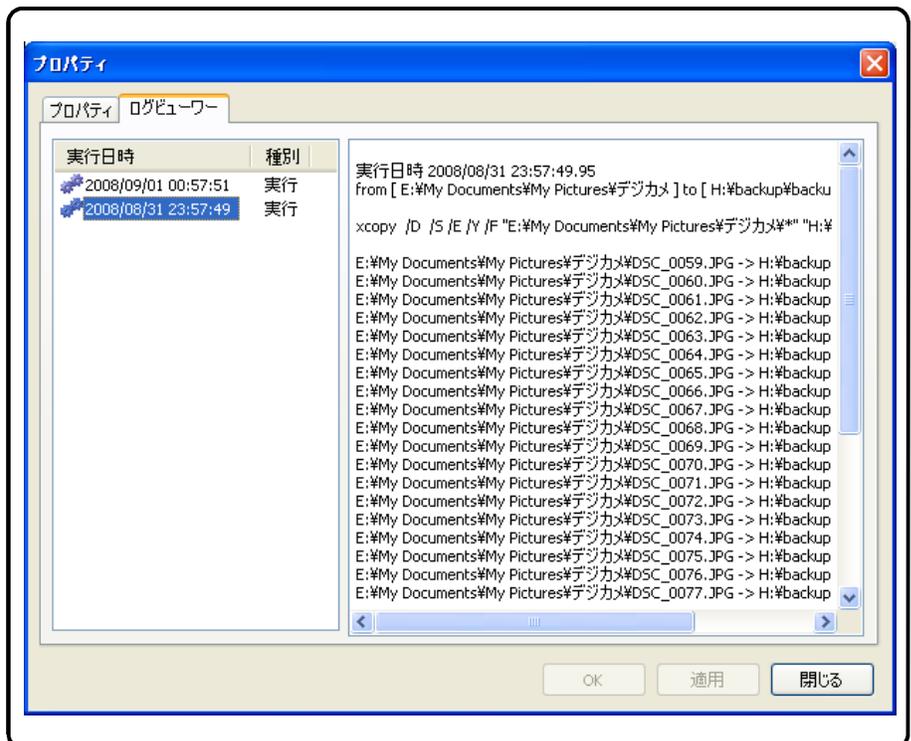
自動実行は規定の時間になると一括実行を自動的に行います。ステータスが「無効」のものに対しては実行を行いません。スクリーンセーバー起動中自動実行はスクリーンセーバー起動後、約1分で開始され、スクリーンセーバー解除時点で実行中のもので実行を終了します。



② 実行ログ

実行後のログを参照するには管理画面のバックアッププロパティを選択し、ダブルクリックします。ログビューワー画面が表示されます。

ログビューワー画面で左側の実行リストを選択すると右側のログ表示エリアにログが表示されます。



V. まとめ

※ワンポイント、注意事項をまとめてみました。

- easymiroは最小化して自動実行、スクリーンセーバー中自動実行で使いましょう。知らず知らずのうちにファイルのコピーを行ってくれます。
- easymiroに復元機能はありません。復元は自身が責任もって行いましょう。
- 今日の作業は終了。会社では帰宅前、自宅では就寝前に。自動シャットダウンで楽々バックアップ。
- 定型的なファイルコピー作業もeasymiroを使えば楽々コピー。
- バックアップ先の状況も時々確認しましょう。特に日時毎バックアップや書庫作成の場合はバックアップファイルがどんどん増えていきます。あまりに古いバックアップで不要なものは削除しましょう。
- 一般的なLANディスク（NAS）をバックアップ先にしてフルバックアップを行う時はアーカイブ属性のファイルを対象にしましょう。更新日時の判断ではうまく動作しません。
- 書庫作成の場合、ワークファイル作成パス（14ページの画面で設定）が含まれるドライブに送り元の合計ファイルサイズ以上の十分な空き容量が必要です。ワークファイル作成パスのデフォルトはユーザーのフォルダ（Windows XPの場合は通常 C:¥Documents and Settings¥（ユーザー名））を使用します。
- 書庫作成の場合、送り元の合計ファイルサイズは4GBが上限となっています。4GBを超えると正常に書庫が作成されない可能性がありますので注意してください。

■著作権

- Microsoft、MS、Windows、Internet Explorerはマイクロソフト社の登録商標です。
- UNLHA32.DLLはMicco氏のフリーソフトです。
- LHA32.EXEはTake氏のフリーソフトです。
- easymiroは有限会社プラスアルファの商標です。
- このマニュアルに記載される全ての製品名/会社名等は、各社の商標または登録商標です。

■お問い合わせ、サポートは

有限会社プラスアルファ システム開発事業部

電話 042-682-0309

FAX 042-666-3387

メール easymiro@palpha.jp

URL <http://www.palpha.jp/>

easymiroをお選び頂きましてありがとうございました。